

## 「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成24年度採択課題）

## 中間評価結果

| 番号  | 研究名               | 研究代表者             | 評価 |
|---|-------------------|-------------------|----|
| 24-8  | 疲労き裂の補修技術に関する研究開発 | 名古屋大学<br>教授 舘石 和雄 | B  |
| <p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>本研究では、疲労き裂が生じた鋼橋部材に対して、簡易にかつ即時性をもって補修するための技術開発を行う。具体的には、ICR、樹脂注入法、溶接補修の3つの技術を取り上げ、それぞれの効果と適用限界を定量的に明らかにするとともに、実施工技術を開発する。</p> <p>※ICR 処理：鋼部材に生じた疲労き裂に対して、その近傍の表面をたたいて塑性変形を与え、き裂を開口させることにより、外力が作用しても開口しないようにする補修法</p> <p>&lt;中間評価結果&gt;</p> <p>研究対象の3つの補強技術のうち、樹脂注入工法については研究目標を再考し、さらに研究計画の全体についても、重点的に研究を進める領域を絞ったものに見直すべきと考える。</p> <p>&lt;今後の研究計画・方法への指摘事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 早期に実橋で適用し、その結果を研究成果へフィードバックすること。</li><li>2. ガイドラインでは、各補修技術の適用性、補修の効果・得失等を、可能な限り定量的に提示し、現場での工法選択の参考になるものとして、とりまとめていただきたい。</li><li>3. 研究計画については、上記のガイドラインを策定することを意識し、そのために必要な研究項目を逆算して進めていただきたい。</li></ol> |                   |                   |    |